

中学校の部 優秀賞 城辺中学校2年 増田 桃

四国防災八十八話 第33話 結いの文化

多くの人の命を救う

「結いの文化」を別の言葉に置き換えると「共助」と言えるのではないでしょうか。私は今までに様々な防災学習をしてきました。小学生の時の防災学習のキーワードは「自助と共助」でした。

今回、私は小学生の時に学んだことを思い出しながら、「結いの文化」という話を読みました。これは、大雨による異変に気付いた主婦が、すぐに役場に連絡をしたり、山裾の八件の家に自分で危険を知らせたりしたことで、一人のけが人も出さずに済んだという話です。

去年は災害の多い年でした。去年を表す漢字も「災」でした。北海道胆振東部地震や西日本豪雨、台風の直撃など、本当に日本各地で災害が起きました。そして、自然の猛威と脅威を思い知らされると共に、人々に悲しみと苦しみをもたらしました。

私たちの身近で起こった西日本豪雨でも、たくさんの死傷者が出ました。このような大きな被害が出たのは、災害の範囲が広がったということも原因の一つであったのかもしれませんが、それでも中には、「結いの文化」のように共助という意識があって、近隣の人々で助け合い、災害から身を守ることができたということも聞きました。愛南町でも、初めて大雨特別警報が出され、満倉地区などは、床上浸水や河川の崩壊などの被害を受けました。

災害は、いつ、どこで起こるかわかりません。一人でも多くの命を救うためには、災害についての正しい知識と理解が必要です。そのためには、過去の災害から学ぶことは大切なことです。人々は災害から命を守るためにどのように行動したのか、どうすれば被害を最小限に抑えられるのかなど、過去の災害から学ぶことはたくさんあります。そこから、愛南町に合った防災対策を考えることが重要だと思います。そのためにも、私たち中学生も一緒になって愛南町の防災について考えたり、避難訓練をしたりするなどして実践力を身に付けていきたいです。